



10月28日  
販売開始

日本の名ピアニストが贈る、名曲の響きを柳川で堪能しよう

## 横山幸雄ピアノコンサート



第12回ショパン国際ピアノ・コンクールで日本人として最年少で入賞後、常に第一線で活躍を続け、令和3年にはデビュー30周年を迎えた横山幸雄。そんな名ピアニストが柳川やってきます。第一線で活躍するプロが奏でる名曲の数々を聴きに足を運んでみませんか。

- 日時 来年2月4日(日)午後2時～(開場は45分前)
- 入場料(全席指定) 一般=3000円、高校生以下=1000円。未就学児は入場不可
- 無料託児 来年1月19日(金)までに要予約
- 発売日 10月28日(土)午前10時から市民文化会館で販売開始
- プレイベント(参加無料) 11月4日(土)午後1時30分から。詳細は同館の公式サイトで公開予定

### 良質な音楽で子どもの耳と感性を育てよう 子どものためのジャズコンサート

- 上質なジャズの生演奏を親子で楽しみませんか。
- 日時 1月14日(日)午後2時開演(開場は30分前)
  - 入場料 ▷中学生以上=1000円▷小学生=500円▷未就学児=無料(0歳から入場可)
  - 前売り券販売 11月4日(土)午前10時から市民文化会館で販売開始
  - 出演 さえきまゆこ(歌)、内田誠(ピアノ)、榎孝仁(ドラムパーカッション)

### 日本の伝統芸能を柳川で楽しもう 喜多流「水都柳川能」公演

- 日時 10月22日(日)午後2時～(開場は1時間前)
  - 入場料(全席指定) ▷A席=前売り4000円、当日4500円▷B席=前売り3000円、当日3500円
  - 内容 ①能「羽衣」②狂言「附子」
  - 出演者 ①狩野了一②野村万禄
  - 前売券販売 市民文化会館などで販売中
- 【問】ふくおか県民文化祭「水都(suito)柳川能」実行委員会事務局 ☎090・1347・7711

### suito 定例イベント

詳しくは同館の公式サイトで確認できます。

#### 第3木曜 リトミックひろば

- 日時・料金 10月19日(木) ①午前10時～②午前11時～(各40分)、1組500円
- 講師 CHIAKI



#### 第3金曜 ロビーコンサート

- 日時・料金 10月20日(金) 午後7時～(約60分)、無料、申込不要
- 出演 久米博之(ギター・ボーカル)



## 新 市史抄片

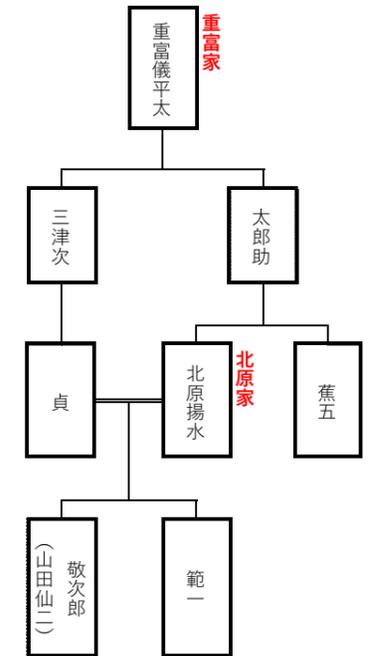
No.193

## 山田仙二と重富家の人々

市史編さん係 宗章子



【写真】山田雲帆画山水図(立花家史料館所蔵)



北原家・重富家家系図

山田仙二は下宮永村(現下宮永町)の私塾、観古堂や、明治維新後の師範学校、旧制中学校で漢学を教えた柳川の教育者です。また、雲帆の雅号で南画家としても知られていて、市が編さんした「柳川の美術Ⅱ」でも、立花寛治の古希の祝いに描いた山水図(写真)を紹介しています。ただ、経歴には不明な点が多く、特に大分県日田市にあった私塾、咸宜園で学んだことが、入門簿で確認できないままでした。

しかし、市史編さんの過程で仙二の実家が重富家だということや、咸宜園の入門簿に記載されていた「重富敬次郎」が仙二だということが分かりました。そこで今回は、仙二とその実家の重富家を紹介します。

仙二は、天保8(1837)年8月20日、大庄屋の重富家の次男として生まれ、安政6(1859)年に23歳で伝習館の館員山田興孝の養子になります。

仙二の実父揚水は、文政7(1824)年、東蒲池村に私塾を開きます。塾は盛況でしたが、本家の大庄屋を継いだのを機に休業します。嘉永5(1852)年には藩士北原氏の籍を継ぐので、このときから仙二も北原の姓を名乗りました。

仙二の兄北原範一は、嘉永6年、休業していた父の私塾を継ぎ、三楽学舎として再開します。

揚水の兄蕉五は、京都で修行した南画家です。仙二は伯父の蕉五から南画を学びました。

この重富家の人々は咸宜園でもよく知られていました。揚水は咸宜園の塾頭を務め、範一は塾生の漢詩選集「宜園百家詩」に選ばれています。彼らはなぜ2世代にわたって咸宜園で学んだのでしょうか。重富家の歴史を調べると、漢学を志した仙二の祖父、三津次の意志が継承されていることが分かります。三津次の経歴は、「文事の達人」と言われながら29歳の若さで没したことしかわかっていません。

仙二は隠居後も漢詩と南画に親しみ、大正15(1926)年11月15日に亡くなるまで柳川の文化をリードしました。生前最後の作品が写真の山水図で、大正15年10月吉日付で九十翁(90歳の翁という意味)雲帆と記されています。弔電を寄せた立花小一郎(陸軍大将)、白仁武(日本郵船社長)、小野英二郎(興銀総裁)といった教え子の顔ぶれを見ると、柳川の近代教育のはじまりを支えた、教育者山田仙二の功績をうかがうことができます。

※表記は広報紙のルールで統一しています。